



	INF	REF	こども	電話	メール	中央計	行徳	BM	南行	信篤	平田	駅南	全館計
6月	653	477	391	10	10	1,541	1,520	48	193	121	104	569	4,096
累計	1,922	1,379	1,223	20	26	4,570	4,386	158	619	358	364	1,678	12,133

INF:インフォメーション・カウンタ REF:レファレンス・カウンタ BM:自動車図書館

📌 今月のレファレンス記録票から

分類

質問と内容

I/B0 昭和初期の地図に行徳橋が記載されているが、行徳橋はいつ架かったのか。

『明解行徳の歴史大事典』（鈴木和明／著 文芸社 2005）p.91「行徳橋 初代の橋は、大正11年（1922）3月18日に開橋祝賀式挙行、木橋。二代目の橋は、昭和32年（1957）3月、可動堰とともに竣工、（中略）。平成16年（2004）現在橋の架け替え計画がある。」とある。

『私たちの行徳今昔史・パート1』（本行徳フォーラム／編 本行徳公民館 1999）p.20「行徳橋について」には、「放水路の工事は、大正9年（1920年）に完成、（中略）この江戸川（旧放水路）に架かる「行徳橋」としての第一号である木の橋は、大正11年（1922年）に建設されました。」と記載されている。

『江戸川改修の記録 工事写真集』（建設省関東地方建設局江戸川工事事務所 1985）p.16-17「江戸川改修工事の経緯」によると、行徳橋の工事着手は大正7年9月1日、竣工は大正11年3月31日とある。

問い合わせの地図に記載されているのは初代行徳橋と思われる。上記資料によると、着工大正7年9月1日、開橋祝賀式大正11年3月18日、竣工同年3月31日となる。

（参考）現在の行徳橋は平成24年から新たに架け替え事業が始まり、令和2年3月10日開通。https://www.pref.chiba.lg.jp/dousei/press/2019/gyoutokubasi_kaitsuu.html（7/20 確認）

I/X3 ^{と き じょう に ん} 富木常忍（日常）と妻（女房尼）、母について知りたい。また、市川市内に富木常忍に関連した史跡、寺院などがあるか。

『日蓮辞典』（宮崎英修／編 東京堂出版 1979）のp.8「日蓮の生涯」の章には、日蓮が女房尼に送った書状『富木殿女房尼御前御返事』に関する記述に、女房尼と常忍の母についての部分があり、p.232「忘持経事」の項に、母が90歳の高齢で死去したときのことが記載されている。関連寺院としては、同書p.52に「弘法寺（真間山）」、p.179 及び p.198に「法華寺」についての記述がある。

また、『日蓮聖人事蹟事典』（中尾堯／編 雄山閣 1981）p.29-32「中山法華経寺を中心とする弟子伝説」には、富木常忍と関連する史跡、寺院について記載されており、『日蓮聖人のご真蹟』（中尾堯／著 臨川書店 2004）には、富木常忍に関する記述に加え、p.181「母の供養」p.182-「よき妻と夫」等の記載がある。

ほかに、『日本古典文学大系 82 親鸞集 日蓮集』（岩波書店 1979）p.449-451「富木尼御前御書」、『上原専祿著作集 16』（上原弘江／編 評論社 1988）p.204-249「富木常忍の母の死を受けて」、『日蓮 房総における宗派と文化』（千秋社 1980）p.85-94「日蓮と千葉氏の周辺」、『市川市史 第2巻』（市川市 1974）p.178-182「富木氏と守護千葉氏」、p.182-189「富木氏と日蓮」があり、『中山法華経寺誌』（同朋舎 1981）p.26-にも、富木常忍の母や妻に関する記述がある。

『大本山 法華経寺（奉迎初祖日常聖人第七百遠忌）』（中山法華経寺 1993）には、初祖日常聖人の像の写真、常忍がかつて住んでいた奥之院にある日常聖人の御墓の写真がある。

388.3 昔話の「悪魔の橋」に関する文献や似た話を探している。

『グリムドイツ伝説集』（グリム兄弟／編著 吉田孝夫／訳 八坂書房 2021）では、p.385-p.386「悪魔の橋」（スイス牧童の話・ロイス川）、関連話として p.249-250「フランクフルトのザクセンハウゼン橋」、他にも類似の悪魔伝説群、棟梁伝説などを読むことができる。『むかしばなし・イギリスの旅』（アイリーン・コルウェル／再話 むろの会／訳 新読書社 1996）p.27-36には、ウエストモーランド州、ルーン川の「悪魔の橋」、『英国=妖精と伝説の旅』（森田じみい／著 東京書籍 1997）p.111-113には、「デヴィルズ・ブリッジ」（マイナック川）がある。『ラ・メ湖のヴァイオリン弾き』（川崎奈月／編訳・絵 論創社 2019）p.147-153には、フランス、ロレーヌ地方に伝わる「悪魔の橋」（モーゼル川）が掲載されている。（千葉県立中央図書館所蔵）

また、『歴史と伝説にみる橋』（Wilbur J.Watson／ほか著 川田貞子／訳 建設図書 1986）では、橋と人との様々な関わりについて、言い伝えやエピソードが記されており、第二章では「悪魔の橋」が取り上げられ、ヨーロッパ各地の類話も紹介されている。『ガイドブック世界の民話』（講談社 1988）には、p.300-301「橋と渡し守り」で、世界の橋に係わる民話についての考察がある。

831.5 英語の筆記体がブロック体にとって代わられ衰退した背景・経緯を知りたい。日本のほか、英語圏の状況はどうなっているのか。

『世界の文字の書き方・書道 1』（稲葉茂勝／著 彩流社 2015）p.28-29「英語の授業と筆記体」では日本とアメリカの状況について述べられている。

また、「朝日新聞クロスサーチ」で検索すると、1998年11月9日東京版朝刊に「筆記体なくなる」との見出しで、学習指導要領改訂で筆記体を教えなくなるという記事と、2008年3月15日夕刊には、「(教科 SHOW) 中学校の英語 筆記体は日本独自のもの？」という記事があり、日本の現状がわかる。

英語圏の状況については、下記の論文をウェブサイトで読むことができる。

「日米比較書字教育の研究 — 「Elementary English」における論文の考察を中心に—」（小林比出代／著 『国語科教育 39 巻』全国大学国語教育学会 1992 p.107-114）

https://www.jstage.jst.go.jp/article/kokugoka/39/0/39_KJ00004918788/article-char/ja
(7/20 確認)

『「HANDWRITING OF THE TWENTIETH CENTURY」から読み解くナショナルカリキュラム制定直前後のイギリスにおける Handwriting の教育の実状』（小林比出代／著 『信大国語教育 29 号』信州大学国語教育学会 2019 p.7-18）

https://soar-ir.repo.nii.ac.jp/record/21042/files/Edukokugo-29_007.pdf (7/20 確認)

このほか、「hellog～英語史ブログ」（堀田隆一）に「#3714. 活字体（ブロック体）と筆記体」が掲載されている。

<http://user.keio.ac.jp/~rhotta/hellog/2019-06-28-1.html> (7/20 確認)

他にもこんな質問ありました（クイック・レファレンスから）

分類	質問	⇒ 回答、補足事項、蘊蓄など
317.7	小説『ST 警視庁科学特捜班』の「科学特捜班」は実在するか。	⇒ 『ST 警視庁科学特捜班エピソード 1』（今野敏／著 講談社 2014）の「2014 年新装版 解説」p.361に、「作家の奔放な創造力はリアリズムの壁を取り払い、警視庁科学特捜班という架空の組織を創り出したのである。」との記述が確認できる。
K378	識字障がいや、HSP (Highly Sensitive Person) ・HSC (Highly Sensitive Child) 等、外見でわからない障がいについての小学校低学年向け読み聞かせのための本	⇒ 『こんなおともだちってすごいね！1～4』（合同出版 2022）1:ディスレクシア 2: ADHD 3:自閉症スペクトラム症 4:不安症、『そらみみがきこえたひ』（宮田雄吾／ぶん 情報センター出版局 2010）統合失調症、『ゆうこさんのルーペ』（多屋光孫／文・絵 合同出版 2020）、『おひさまいろのきもの』（広野多珂子／作・絵 福音館書店 2007）識字障がいなど。